

「市民参加型合意形成プラットフォーム」の意義と目的

< 目的 > 情報公開し、政策形成過程に市民が参画する新たな仕組みを構築する

既存の取組

市民対話・ワークショップなど

《《メリット》》

- ・ 議論に臨場感があり、活発に進む
- ・ 議論の密度が濃い

《《デメリット》》

- ・ 時間、場所、参加者層に制約や偏りがある
- ・ 主張の強弱が出やすい

新たな取組

オンラインプラットフォーム

《《メリット》》

- ・ 時間、場所、参加者層の制約がない
- ・ 議論がオープンである
- ・ テキスト主張の強弱が出にくい

《《デメリット》》

- ・ 議論の密度は市民対話には劣る
- ・ 議論の展開にやや時間を要する

補完



拡充

市民参加型合意形成プラットフォーム = 政策形成過程に幅広い市民の参画を可能とする仕組み